

子ども用



伝道地便り

2021年 第2期 中央アメリカ支部

- | | |
|-----------------------|------------|
| 第1話 「歯医者さんをキリストへ」 | トリニダード・トバゴ |
| 第2話 「出べそ」 | トリニダード・トバゴ |
| 第3話 「いじめっ子たちをキリストに導く」 | コロンビア |
| 第4話 「少年説教家」 | コロンビア |
| 第5話 「イエス様のために音楽を……」 | メキシコ |
| 第6話 「命というおくりもの」 | メキシコ |

ADVENTIST
MISSION

セブンスデー・アドベンチスト教団 伝道局 安息日学校部

伝道地便りの用い方のヒント

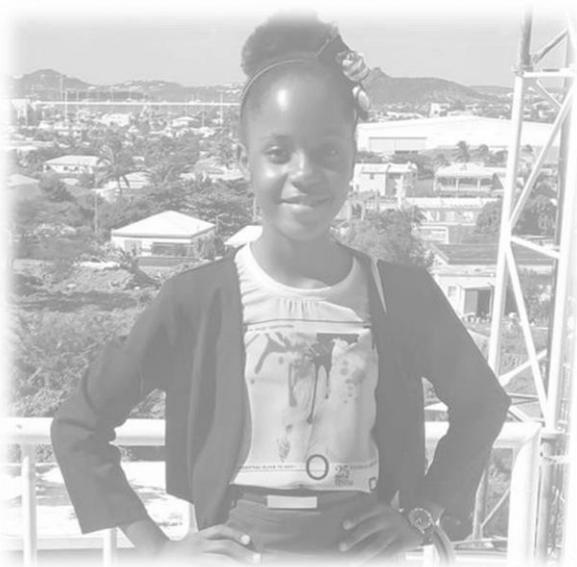
伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか列挙いたします。

- 1) 前もって何度か目を通し、自信を持って読む。
- 2) 棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。
- 3) 伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。
- 4) 誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。
- 5) できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。
- 6) 時には、スキット(寸劇)風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」紹介しましょう。

1. 歯医者さんをキリストへ

トリニダード・トバゴ



マグダリーナ 12歳

トリニダード・トバゴの町、セントマーティンに住む少女マグダリーナは学校が終わると毎日、薬局の前でお父さんの車を待っていました。お父さんが仕事を終えて彼女を迎えに来るまで1時間以上待つこともありました。その間、本当にたくさんの人々が薬局を出入りしていました。

この人たちはイエス様を愛しているのかしら？ とマグダリーナは考えるのです。

ある日、彼女は迎えに来たお父さんの車に來ると、こうたずねました。

「この薬局にはたくさんの人たちが出入りしているわ。この人たちにトラクトを配ってもいいかしら？」

お父さんの顔に大きな笑みが浮かびました。娘が他の人々にイエス様を伝えようとしている事が嬉しかったのです。

「もちろんいいよ」

とお父さんは答えました。

次の日、マグダリーナは神様の愛について書かれているトラクトをかばんに入れて、学校に行きました。学校が終わるといつもの薬局の前でマグダリーナは出入りする人々にトラクトを差し出しながらこう言いました。

「こんにちは。ごきげんいかがですか？ イエス様の愛についてのトラクトをもらっていただけませんか？」

その日、さし出されたトラクトを拒む人は誰もいませんでした。みんな受け取ってくれたのです。お父さんが迎えに来た時、マグダリーナはトラクトを全部配り終えたことを嬉しそうに報告しました。

次の日も、その次の日も、マグダリーナはもっとたくさんのトラクトを持って行きました。トラクトが少ない時、お父さんは家のプリンターで印刷してくれました。

しばらくすると、マグダリーナは1人の歯科医が薬局の前をいつも通ることに気づきました。歯医者さんはオフィスから出たり、入ったりしていたのです。彼女は毎日、歯医者さんにトラクトを渡し、彼は毎回それを受け取りました。

マグダリーナは父にそのことを話しました。

「お父さん、あの人にイエス様のこと話してもいい？」その歯医者さんはお母さんの歯を治療してくれたことがあったので、お父さんはその人を知っていました。

「もちろんいいよ」

とお父さんは言いました。

次の日、マグダリーナはその歯医者さんが來るとたずねました。

「イエス様をご存じですか？」

歯医者さんはその言葉に驚きました。もらっ

たトラクトをまだ読んでいなかったからです。

「イエス様について聞いたことはあるけど、私はイエス様を信じてはいないよ」

と歯医者さんは言いました。

マグダリーナはその返事を聞いて悲しくなりましたが、こう訊ねてみました。

「聖書のお話をさせてもらえませんか？」

歯医者さんはその申し出を断ることができず、明日オフィスにどうぞ、と彼女を招待してくれました。そのことをお父さんに話すと、お父さんは「いいよ」と言ってくれました。

そして明日はいつもの薬局ではなく、歯科のところに迎えに行くからと言いました。

その夜、マグダリーナはお父さんに聞いて、歯医者さんにプレゼントする聖句を決めました。そしてもう1つお願いをしました。

「先生は聖書をお持ちでないの。1冊プレゼントしていいかしら？」

お父さんはピカピカの新しい黒い聖書を見つけてくれました。次の日、マグダリーナが聖書を持っていくと、お医者さんはとても喜びました。

その後1か月間、マグダリーナは放課後毎日歯医者さんのオフィスに行きました。そして共に聖書を読み、その内容について話し合いました。歯医者さんは少しずつイエス様を信じるようになりました。ある日、お医者さんは神様がこの世を創造された時に、第7日目安息日を聖別されたということがわかった、と言いました。マグダリーナが次の安息日、一緒に教会に行きませんか、と誘うと

「ああ、行くことにしよう」

と歯医者さんは言いました。お父さんが迎えに来た時、マグダリーナはそのことを興奮気味に伝えました。

「教会にお誘いしたら行くとおっしゃったのよ！」

と彼女は嬉しそうに言いました。

次の安息日、マグダリーナの家族は車に歯医者さんを乗せて教会に行きました。マグダリーナもお父さんもお母さんも嬉しい気持ちでし

た。歯医者さんは特に嬉しそうでした。

「あなたのお嬢さんのおかげで私はイエス様のことを知ることができました」

と歯医者さんはお父さんに言いました。

マグダリーナはまさに宣教師の働きをしたのです。彼女の父親、マクソも小さいころ、母親とその他14人の家族をイエス様へと導きました。今日、マクソはトリニダード・トバゴの南カリブ大学で牧師になるための学びをしています。

今期の13回献金の一部は南カリブ大学のキャンパスに宣教師訓練所を開設するために用いられます。学生たちが宣教師となる訓練を受けることができるよう皆さまの惜しみない献金をよろしくお願い致します。

〈お話のヒント〉

- トリニダード・トバゴを大きな地図から見つけてみましょう。
- YouTube でマグダリーナのビデオを見ましょう。bit.ly/Magdalena-IAD
- Facebook でこの話の写真を見ましょう。bit.ly/fb-mq
- 中央アメリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。bit.ly/IAD-Facts

2. 出べそ

トリニダード・トバゴ



マタイス 10歳

マタイスはトリニダード・トバゴの首都、ポートオブスペインで生まれました。彼のおへそは生まれつきとび出していました。医者は腸の一部がおへそから突き出ているのだと言いました。

「心配はありません。3歳になる頃には、自然に治るでしょう」

でも医者はお父さんとお母さんにマタイスのおへそをケガしないよう注意深く守るように言いました。もしそこの部分が傷ついてしまうと、マタイスは重症になると言うのです。

お母さんとお父さんは、おへそが治るよう祈りながら待ちました。もし治らなければマタイスは手術を受けなくてはなりません。1年たち、2年、3年と過ぎていきました。マタイスのおへそは治りませんでした。

医者は手術しなければならぬと言いました。手術の日程が決まるまで、さらに3年かかりました。手術のためにお父さん、お母さん、

そして教会の友人たちは祈りました。

手術のためにお父さんがマタイスを病院に連れて行った時、彼はおびえてしまいました。手術を受けたくありませんでした。

医者が父親にマタイスの体調をたずねると、お父さんは良好です、と答えました。

「良かった。風邪の時は手術ができませんから」

と医者が言うと、マタイスは待合室でせきをし始めました。少年がせきをしているのを聞いた医者の顔が変わりました。

「もし風邪をひいているなら手術はできません」

と医者は言いました。お父さんが

「風邪はひいていません。ただ手術がこわいだけなのです」と言っても、医者は頭をふりました。

「もしものことがあるといけないので、手術は延期しましょう」

と医者は言いました。それを聞いたマタイスは安心して笑顔になりました。

お父さんは息子が仮病を使ったことにごっかりしましたが、マタイスの気持ちもわかりました。もし自分が同じ立場なら同じ気持ちだろうと思いました。

両親は祈り続けました。

「マタイスに手術を受ける勇気をお与えください」

マタイスも祈りました。

「神様、手術は受けたくないのです」

1年後、彼が7歳の時、医者は手術をしようと言いました。再びお父さんとお母さんは祈りました。教会の友人たちも祈りました。お母さんは彼を病院に連れて行きました。医者が彼の名前をたずねると、少年は「マタイス」と答え

ました。さらに何歳かとたずねられ、「7歳」と答えました。

「学校ではいい成績をとっているかな？」という問いに、「ぼくはいい成績をとってるよ」とマタイスは言いました。医者が彼に麻酔の注射を打つ前に、お母さんはマタイスの写真を撮りました。それからお母さんは待合室で祈りながら待っていました。マタイスが目を覚ました時、彼は同じベッドに寝ていましたが、別の部屋にいました。横にはにっこり笑ったお母さんが立っていました。

「ここはリカバリールームよ」とお母さんはマタイスに言いました。

「今回はちゃんと手術を受けて立派だったわ」

医者は手術が成功したと言いました。数週間後、包帯を外すとマタイスのおへそはもう突き出ていませんでした。ふつうのおへそになったのです。マタイスの人生は変わりました。手術の前は、おへそを傷つけないために走ったりジャンプしたりできませんでした。今、10歳になった彼は走るとクラスで1番になります。学校の休み時間に走ったり、跳ねたりするとき、彼は手術のことを思い出し、立ち止まって神様に感謝を捧げます。「神様、手術が成功した事を感謝します」と彼は心の中で祈ります。

マタイスのお母さん、シレットはトリニダード・トバゴにある南カリブ大学で教えています。今期の13回献金の一部はこの大学のキャンパスに宣教師訓練所を開設するために用いられます。

〈お話のヒント〉

- 地図でトリニダード・トバゴを見つけましょう。
- ユーチューブでマタイスを見てみましょう。
bit.ly/Matthais-IAD
- フェイスブックの写真をダウンロードしましょう。
bit.ly/fb-mq
- 中央アメリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。
bit.ly/IAD-Facts

豆知識

- トリニダード南部原産のモルガスコピーオンは唐辛子の辛さを計る単位であるスコヴィル値が200万に届く、世界で正式に2番目に辛いとされる唐辛子です。一方、ピーマンのスコヴィル値は0~100、ハラペーニョは10,000です。



3. いじめっ子たちをキリストに導く コロンビア



エリーナ 10歳

コロンビアに住む7歳のエリーナは学校から泣きながら帰ってきました。彼女はお母さんに両手を差し出し、鉛筆の黒鉛と赤いポツポツで覆われた両手のひらを見せました。学校で9歳の少年が鋭い鉛筆で彼女の手をつついたので。

先生はエリーナにやり返すようにと言い、少年との間に介入しようとしませんでした。

エリーナは「もう学校に行きたくない」と言って泣きました。

お母さんとお父さんはエリーナに対する少年のいじめを止めてくれるよう先生に頼み、そうでないと警察を呼ぶと言いました。

少年は再び彼女にいじわるをすることはありませんでした。でもある時、少年と仲良しの

2人の少女たちにエリーナがおなかを蹴られるということが起きました。

お父さんとお母さんは再び先生と話をしました。すると先生は「娘さんは自分を守るということを学ばねばなりません」と言ったのです。

エリーナはいよいよ学校に行きたくなくなりました。

ある日、先生は学校での授業のために、1人ひとり自分のおもちゃを持ってくると子どもたちに言いました。

エリーナは赤ん坊の人形を持って行きました。すると、あの少年と仲良しで、前の2人とはまた別の2人の女の子がエリーナの人形をとって彼女の頭を強く叩いたのです。

お母さんはエリーナを別の学校に行かせることにしました。エリーナはジャネイロの町の公立学校に行くことになりました。

しかし、困ったことに、またいじめが始まったのです。10歳の男の子たちがかしこいエリーナのことをからかい出したのです。

そのことが校長先生の耳に入りました。校長先生が

「エリーナは何もおかしなことはしていないのに、なぜ彼女のことを笑うのか？」としかると、からかった子のひとりが

「だって彼女かしこいんだもん」と、さもそれが悪いことであるかのように答えました。

エリーナはほかの子どもたちと遊ばなくなり、1人であることを好むようになりました。でもたった1人だけ友だちがいました。シャイラという女の子です。

お母さんはひとつのことを思いつきました。「子どもたちのための小さなグループを作

りましょう。子どもたちを家に呼んで、聖書の話聞かせてあげるのよ」

エリーナは聖書の話が好きでしたので、友だちのシャイラを金曜日の夕方5時からの集いに招待しました。

シャイラはエリーナに黙ってあのからかった男の子たちを集いに誘いました。こうして最初の金曜日、12人の子どもたちが来て、エリーナがダビデとゴリアテの話をするのを聞きました。

話の後、お母さんがエンパナーダ・パイと赤いやシ・ジュースをごちそうしてくれました。子どもたちはみんな喜んでまた来たいと言いました。

次の金曜日、その同じ12人の子どもたちはさらに4人の友だちを連れてやってきました。

やがて30人もの子どもたちが毎週金曜日、エリーナの家に聖書の話聞きに来るようになっていました。

そして3か月のうちに、10人の子どもたちが自分たちの心をイエス様にささげてバプテスマを受けました。

そのうちの4人は以前、エリーナがかしこいために彼女をからかった男の子たちでした。彼らはもういじわるをしなくなります。彼らはエリーナと友だちになったのです。また、バプテスマを受けた子どものうち、1人の子の母親もバプテスマを受けました。

今、エリーナは10歳です。毎週金曜日の夜、彼女はコロンビアにある自分の家で子どもたちに聖書のお話をしています。彼女はいじめでもう悩むことはありません。その代わりに彼女は自分の時間を全部使ってイエス様への愛をみんなと分かち合う方法について考えたいと思っています。

「イエス様の元へ人々をお連れすることを夢見しています。私に栄光を帰すためではなく、主のご栄光のために」とエリーナは言います。

エリーナは金曜日ごとに家に友だちを呼んで、聖書の話聞かせる本物の宣教師です。

今期の13回献金はエリーナの母国、コロンビアにあるコロンビア・アドベンチスト大学に宣教師訓練所を開設する助けとして用いられます。学生たちが宣教師となる訓練を受けることができるように、皆様による惜しみない献金をどうぞよろしく願いいたします。

〈お話のヒント〉

- 地図でコロンビアを見つけましょう。
- フェイスブックの写真をダウンロードしましょう。 bit.ly/fb-mq
- 中央アメリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Post」をダウンロードしてみましょう。 bit.ly/IAD-Facts

豆知識

- コロンビアの識字率は世界の平均値を超えており、94%以上の人々が読み書きができます。



4. 少年説教家

コロンビア



ガブリエル 12歳

ガブリエルは6歳の時、コロンビアのネコクリにある彼の教会で年上の子どもたちが説教するのを見ました。

彼はイエス様について語る彼らの話を聞くのが好きでした。そして説教するって、どんな感じなんだろうと思いました。

ある安息日の礼拝後、彼はお母さんに言いました。

「ぼくお説教がしたい。みんなの前で話すってどんなものか知りたいんだ」

お母さんは驚きましたが、そのことを嬉しく思い、牧師先生に聞いてみると言ってくれました。ガブリエルは説教できるかもしれない、と嬉しくなりました。お母さんはこの事をすぐに牧師先生に話し、牧師先生は考えておくとおっしゃいました。

ガブリエルは牧師さんが考えている間に自分の最初のお話の準備にとりかかりました。彼

は天地創造のお話、中でも神様が7日目を祝福して聖なる安息日とされた部分が特に好きでした。彼は創造について話すことに決めました。

彼はまだよく読めなかったので、お母さんに創世記1章と2章の天地創造物語を読んでほしいと頼みました。それから創造についてのアドベンチストのアニメを見つけてそれを見ました。牧師先生のお返事を待ちながら、彼は自分の用意している話を説教することを考えてワクワクしました。彼は毎日、原稿を見直し、お話をよりよいものへと仕上げていきました。

3か月が経った時、お父さんは牧師先生に次の水曜日の祈禱会でガブリエルにお話しさせてもいいだろうか、とたずねました。

「その日の話の担当は私ですが、息子が代わりにお話ししてもよろしいでしょうか」

とお父さんは言いました。

牧師先生が同意したので、お父さんはこのニュースを息子に伝えました。

「君が待っていた日が来たよ。君は次の水曜日にお話しするんだ！」

ガブリエルの心はワクワクしました。

「神様がぼくに説教する時をくださったんだ」と彼は言いました。ガブリエルはきちんとしたシャツを着て、お話を書いた小さなノートをかかえ、教会に到着しました。集会に集まった25人の聴衆はお父さんが説教壇の後ろに大きなコンクリートのブロックを置くのを見、さらにガブリエルがその上に立って説教をするのを見て驚きました。

ガブリエルはみんなの前に立って緊張しましたが、とても嬉しい気持ちでした。聴衆は注意深く聞き入っていました。

そして気が付くと、ガブリエルの30分の説教は終わっていました。彼はもう緊張するどころか、もっと話したいと思いました。

人々は少年の説教を聞いて、神様をほめたたえながら帰って行きました。ガブリエルはまた説教がしたくなり、両親は牧師先生と話しました。先生からのお返事を待つ間、ガブリエルはヨナと大きな魚の話の準備しました。数か月後、彼は別の夕方の集会でそのお話をすることができました。

今日、12歳のガブリエルは町の牧師たちから少年説教家と呼ばれています。彼は町の3つの教会で2か月に1度話をしています。週の間話すこともありますし、金曜日の夜、パスファインダーの子どもたちのために話を担当することもあり、安息日の説教をすることもあります。

彼の説教は子どもたちに感銘を与えています。子どもたちはガブリエルのように神様を知りたいと思い、ある子たちは彼のように説教できるようになりたいと思っています。彼の説教を通して、8名の子どもたちがバプテスマを受けました。

「ぼくは説教をするのが好きです。なぜなら、変えられていくからです」

とガブリエルは言います。

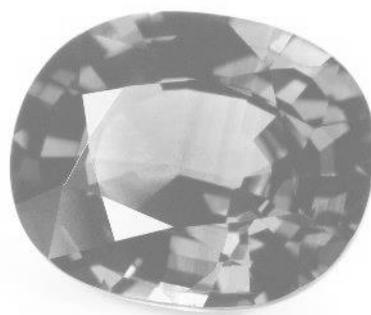
ガブリエルはイエス様について説教する本物の宣教師です。今期の13回献金の一部はガブリエルの母国、コロンビアのコロンビア・アドベンチスト大学に宣教師訓練所を開設するために用いられます。

〈お話のヒント〉

- コロンビアを地図で見つけましょう
- YouTube でガブリエルを見てみましょう。
bit.ly/Gabriel-IAD
- Facebook の写真をダウンロードしましょう。
bit.ly/fb-mq
- 中央アメリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。
bit.ly/IAD-Facts

豆知識

- コロンビアは二つの輸出品でよく知られています。この国は世界的有名なコーヒーの産地であり、エメラルドの世界的主要産地でもあるのです。



5. イエス様のために音楽を…… メキシコ



ミゲル 11歳

ミゲルは宿題をする気になれませんでした。午後1時30分過ぎに学校から帰宅すると、彼は自分にこう言い聞かせました。

「国語と理科、算数をするのに夜まで何時間もあるんだ」

彼はまず昼食を食べました。メニューは大好物のトマトスパゲッティとベジタリアンミートボールです。ほうれん草ときゅうりとトマトのサラダもおいしくいただきました。食後、お母さんがミゲルに宿題をするように言うと、ミゲルは悲しい顔をして「あとでね」と言いました。

彼は自分の部屋に行き、たたかいごっこをするために恐竜おもちゃのコレクションを引っ張り出しました。

たたかいごっこに飽きると、テレビをつけてアニメ番組を見ました。

それにも飽きると、お母さんのスマートフォンを使って、粘土の恐竜の作り方をユーチューブで見ました。

気が付くと日が沈みかけていて、お母さんの呼ぶ声が聞こえました。

「ミゲル、来て宿題をきなさい！」

ミゲルはリュックサックを持ち、「今行くよ、今行くよ」と言いながらのろのろと足を引きずるように食堂のテーブルへ向かいました。

宿題をする間、お母さんはとなりに座ってちゃんと終わるまで見ていました。毎日この繰り返しでした。

ミゲルにきちんと宿題をさせるにはどうすればよいか、お母さんにはわかりませんでした。

VBSで楽器について学んできたミゲルは、ある日、お母さんに「バイオリンで讃美歌が弾けるようになりたい」と言いました。お母さんはモンテモロス大学を卒業したばかりの若い音楽の先生を見つけて、ミゲルにバイオリンを教えてほしいと頼みました。

そしてその後、こう思ったのです。

「ミゲルだけじゃなく、教会の子どもたちみんな、そしてイエス様を知らない彼らのお友だちも楽器を習えばいいんじゃないかしら！」

お母さんはミゲルと教会の子どもたちのために音楽のクラスをいくつか立ち上げました。最初は少人数のグループだけでしたが1年経つとミゲルは教会でバイオリンでの特別讃美歌をするようになりました。他の子どもたちはそんな彼を見て、自分たちも特別讃美歌がしたいと思いました。

じきに45人もの子どもたちが週2回、木曜日と金曜日に教会に来て、バイオリン、ギター、リコーダー、ベル、フルート、そしてピアノを習うようになりました。

ミゲルはバイオリンを弾くのが大好きです。今では学校から戻って昼食を済ませると、さっさと皿を台所に運び、テーブルをきれいに拭きます。お母さんが宿題をするように言わなく

でも、バイオリンを弾くために自分から取り組みます。宿題を終えると居間でバイオリンを弾きます。彼は教会の讃美歌、とくに「キリストにはかえられません」を弾くのが大好きです。

そしてもし時間が余れば、恐竜のおもちゃで遊びます。お母さんはミゲルの変化に驚いています。彼はもうテレビを見たり、お母さんのスマートフォンで動画を見たりしません。テレビゲームをしたり、インターネットに時間を使うことに興味はないのです。

なぜかって？ そんなひまはないのです。毎週木曜日と金曜日にはバイオリンのレッスンがあり、練習のためにたくさんの時間が必要なのです。ミゲルは過去の自分に戻りたいとは思っていません。

「ぼくは、テレビゲームで遊んで、時間を無駄にする生き方はしたくないのです。ぼくはイエス様に仕えたいのです」と彼は言います。

ミゲルは音楽を通して神様に仕える立派な宣教師です。今期の13回献金は、ミゲルの家からあまり離れていない、メキシコのモンテモレロスにある、モンテモレロス大学に宣教師訓練所を開設するために用いられます。

〈お話のヒント〉

- 地図でメキシコを見つけましょう。
- YouTube でミゲルを見たり、彼の音楽学校の音楽を聴いてみましょう。 bit.ly/Miguel-IAD
- Facebook の写真をダウンロードしてみましょう。 bit.ly/fb-mq
- 中央アメリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしてみましょう。 bit.ly/IAD-Facts

豆知識

- メキシコ人のスポーツに対する姿勢は真剣そのものです。メキシコが征服される前、儀式として行われる球技において敗れた者は殺されることが度々でした。今でも闘牛やロデオのように危険なスポーツがあり、出場者は命をかけて戦います。メキシコで最も人気のあるスポーツはサッカーです。



6. 命というおくりもの

メキシコ



アドリアン 15歳

メキシコのモンテモレロスにある安息日学校の子どもクラスで先生からの大事な発表がなされました。

「健康に恵まれない子どもがいるから、今日の午後、その家を訪問して彼と一緒に祈りをし、贈り物を渡そう」

と先生は言いました。

先生は、約束の時間にロスサビノス SDA 教会に集まるのはほんの数人だろうと思っていました。先生はクラスからのプレゼントにするために缶詰め食品と唐辛子の詰まったビニール袋を持って集合場所にやってきました。ところが、驚いたことに、なんと 15 名、クラスの全員が各々、贈り物を持ってやってきたのです。ある者はトイレットペーパーと石けんを、他の子どもは豆、米、砂糖、塩という具合に。

子どもたちは 2 台の車に分乗し、小さな家に向かいました。

その家には、2 つのベッドが置かれたたった 1 つの部屋しかありませんでした。子どもたちが見ると、15 歳のアドリアンは片方のベッドに座っていて、彼の松葉づえが壁に立てかけられ

ていました。アドリアンのお父さんと 7 歳の弟がもう 1 つのベッドに寝ていました。部屋には、小さな冷蔵庫と 2 ロコンロも置かれていました。

15 人の子どもたちは部屋いっぱいに入り、アドリアンのベッドを取り囲みました。12 歳のイライが聖書を開いて、詩篇 23 篇を朗読しました。

「主はわたしの牧者であって、わたしには乏しいことがない」

アドリアンは聖書の言葉に興味がありませんでした。彼は多発性硬化症を患い、まだ 15 歳にもかかわらず、何度か心臓発作を経験していたのです。彼は自分の健康について心配していました。

でも詩篇の言葉は彼の心をとらえました。

「たといわたしは死の影の谷を歩むとも、わざわいを恐れませぬ。あなたがわたしと共にられるからです」

とイライは声に出して読みました。

アドリアンの心に神様をもっと知りたいという願いがわいてきました。子どもたちが讃美歌を歌うと、先生はアドリアンのために祈りをささげました。

「神さま、アドリアンに会えたことを感謝します。アドリアンと彼の家族、彼の人生を祝福してください」と先生は祈りました。

先生が、毎週一緒に教会に行かないか、とアドリアンを誘うと、「そりゃあ素敵だ！」と彼は喜んで叫びました。

「ぜひそうしたいな」

子どもたちは再び 2 台の車に乗り込み、教会に戻りました。

その間、彼らは黙って考えていました。自分たちがどんなにより家や健康に恵まれているかを。そして今までヘアバンドがないとか車の

おもちゃがないなどといった小さなことで親に文句を言っていたことが恥ずかしくなりました。

次の安息日、先生はアドリアンを車にのせて教会に行きました。

少年はそこに着くなり、安息を感じたのです。

人々は彼を温かく迎え、彼は聖書の話喜んで聞きました。週ごとに彼は神様についての学びを深めていき、たくさんの苦しみに遭っても神様を信じ続けたヨブの話が特に好きになりました。そしてヨブのようになりたいたいと思いました。また、ときどき、安息日学校クラスの子どもたちが彼の家を訪問することもありました。

ある日、アドリアンの父親が先生に電話をかけてきました。

「ビッグニュースがあります」とお父さんは言いました。

「でもそれが何であるかは私の言うべきことではありません。ちょっとお待ちください」

彼はこう言って、アドリアンに携帯電話を渡しました。

「ぼく、考えていたんですけど……」とアドリアンは言いました。

「バプテスマを受けたいんです。どう思いますか？」

「こんないいニュースはないよ！」と先生は興奮して叫びました。

「これは君にできる最もすばらしい選択だよ！」と先生は言いました。先生はバプテスマのために手配を整えよう、と約束しました。

再び電話口に出たお父さんは先生にこう言いました。

「息子は私よりも勇気があります」とお父さんは声を詰まらせました。

「私はバプテスマを受ける決意をしたことはないのです」

安息日学校の子どもたちはアドリアンがイエス様に心をお捧げしたいと思っていることを聞いて、感激しました。

聖書研究を受けた後、アドリアンは安息日学

校クラスの子どもたちが見守る中で、バプテスマを受けました。

男の子たちはアドリアンへの贈り物としてバプテスマのビデオを作りました。

アドリアンは家族の中で、最初でただ1人のアドベンチストです。彼は靴磨きで生計を立てるお父さんが、いつの日かバプテスマを受けるように祈っています。

「バプテスマを受けたのは正しかったと思います。なぜならぼくは主と共にあってこそ生きていくんだと感じるからです」

とアドリアンは言います。

安息日学校クラスの子どもたちは、アドリアンとイエス様を分かち合った立派な宣教師であり、今ではアドリアンもお父さんのために祈りを捧げる立派な宣教師です。

今期の13回献金はメキシコのアドリアンの家からあまり遠くないモンテモレロス大学に宣教師訓練所を開設するために用いられます。中央アメリカの支部のモンテモレロス大学及びその他の12の大学で学生たちが宣教師となる訓練が受けられるよう、皆様からの惜しみない13回献金をよろしくお願いいたします。

〈お話のヒント〉

- メキシコを地図で見つけてみましょう。
- 先生の名前はガブリエルと言い、彼の2人の息子たち、ジュニアとディエゴもアドリアンの友として力を貸した子どもたちの中にいます。写真の先生と子どもたちを見てください。
- YouTube でアドリアンを見てみましょう。
bit.ly/Adrian-IAD
- Facebook の写真をダウンロードしましょう。
bit.ly/fb-mq
- 中央アメリカ支部の情報をダウンロードしましょう。
Bit.ly/IAD-Facts

〈13 回献金を前に〉

- 保護者宛てに 13 回安息日プログラムのお知らせを送り、6 月 26 日の 13 回献金へのご協力をお願いしましょう。伝道地献金は世界中に神様のことばを伝えるための贈り物であること、そして私たちの 13 回献金の 4 分の 1 は中央アメリカ支部における 13 のプロジェクトを助けるために直接送られることを全員に知らせてください。プロジェクトの内容については『聖書研究ガイド』の裏表紙をご参照ください。
- 語り手は話を暗記する必要はありませんが原稿なしでも話せるようにしておきましょう。また子どもたちにこのお話を演じさせるのもよいでしょう。アドリアン役、先生役、そして安息日学校のクラスの子ども役、というように配役を決めて。
- お話の前か後に、13 回献金が送られることになっている中央アメリカ支部の 13 の国々を地図を使って示しましょう。献金によってこれらの国の 13 の大学に宣教師訓練所が開設されることを説明しましょう。

〈今後の 13 回安息日プロジェクト〉

来期の 13 回献金は北アメリカ支部で下記の目的のために用いられます。

- アメリカのホルブルック SDA インド人学校の多目的体育館の工事。
- パラオのパラオ SDA 学校に教職員の住宅を建てる。
- カナダのイグルーリクに教会とコミュニティセンターを建てる。
- カナダとアメリカに難民のために教会を創設する。

豆知識

- メキシコは多くの生物種の渡りパターンの主要な構成部分を占めています。数えきれないほどのカモやガンが毎年秋になるとメキシコの高山に渡って来ます。
- 米国から毎年何百万もの絶滅危惧種のオオカバマダラチョウがミチョアカン州東部の森林に覆われた峰々に渡ってきます。

